

施策評価シート（平成27年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	2-4	政策名	日常生活の安全確保	政策の 目指す姿	安全・安心な日常生活を送っています	施策 主管課	市民生活総合相談センター	施策主管 課長名	高橋 久雄
	施策No.	3	施策名	交通安全の推進	施策の 目指す姿	交通事故が少なくなっています	関係課名			
	現状と課題	・交通事故による負傷者数は平成20年の497人から平成25年の276人と毎年減少傾向にありますが、死亡者数は平成23年の3人を除き、近年は10人前後となっており、その半数が高齢者となっています。 ・交通事故の防止に向け、関係機関と連携を図り、市民一人ひとりの交通安全意識を高めなければなりません。								

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

(1)交通安全意識の啓発

- ・市民のための交通安全推進指針の周知
- ・交通指導員による街頭指導
- ・交通安全教室の開催
- ・交通安全関係団体への支援
- ・交通安全コンクールの参加促進
- ・交通安全推進モデル地区の指定
- ・保育園児や幼稚園児、高齢者等を対象とした交通安全教室の開催

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
交通安全コンクール参加者数	交通安全推進活動への市民参加状況を示す指標	交通安全コンクール「チャレンジ100」の参加者数を計測する	人	目標値				2,860	2,870	2,880
				実績値	1,829	2,261	2,850	2,843	2,438	
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
D	<p>■成果指標「交通安全コンクール「チャレンジ100」の参加者・・・【達成度c】</p> 交通安全コンクール「チャレンジ100」の参加者は、昨年度に比較し405人減少し、目標値に対しても84.9%と低調であった。要因としては、昨年度参加した市内の事業所が当該年度参加していないことと、例年参加している事業所であっても参加者が少なかったことが要因であった。

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1	交通安全推進事業	市民生活総合相談センター	A	B
	交通指導員による街頭指導 指導員81名、街頭指導延べ人数5,266人 交通安全教室の開催回数 240回 参加者15,643人、交通指導車による広報活動回数 334回			

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)

無し

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

交通安全推進事業における交通安全教室の開催のあり方を見直す必要がある。

(新たに取り組むべき事業はないか)

交通安全教室の参加者の分析を行う必要がある。

6 施策の総合的な評価

(課題)

- ・街頭指導や地域での啓発等を担う交通指導員が高齢化しているほか、定員89名に対し現員79名と定員割れしていることから、交通指導員の確保が必要である。
- ・交通安全教室開催回数は目標を上回っているものの、成果指標の参加者数は減少していることから、交通安全教室の開催のあり方を見直す必要がある。
- ・高齢者の交通事故が多発していることから、早急に効果的な啓発活動を実施する必要がある。
- ・交通安全コンクール参加者数が減少している。

(今後の方向性)

- ・イベントなどへの出勤を減らすなど交通指導員の負担軽減を図る一方で、各種会合に合わせた交通安全教室の開催など効果的な啓発活動のあり方を検討する。
- ・高齢者の交通事故防止に向けた啓発活動について、警察署、交通安全協会、交通安全母の会などの関係機関や地域組織との連携による新たな啓発活動について検討し実施する。
- ・交通安全コンクール参加者を増やすため、事業所へ訪問して参加勧誘活動を行う。